



見事に再生を遂げたピアノと出会える
伊藤楽器ヤマハ特選中古ピアノセンター北習志野店

究極の響きを求めて

ヤマハの音色を完成させるピアノ調律技術者たち Part2

第1回
株式会社伊藤楽器 技術事業部
海野 洋氏

ピアノの名医と呼ばれる 調律技術者でありたい

ヤマハピアノとして世に出た楽器に弾く人とともに命を吹き込み、音色を完成させるピアノ調律技術者たち。地域の音楽拠点として信頼を寄せられる多くの楽器店でも、高い技術力とすぐれた感性を日々発揮しています。今回からはそうした方々にお一人ずつご登場いただきます。

今も常に探究心と向上心とともに
律技術者になった

環境や気温・湿度の変化、年月の経過などを勘案しながら、その時そのピアノの一番良好な状態を引き出すこと。ただ、ピアノ調律というのは感性と感性のぶつかりあい、技術者がよいと思っても演奏者がダメだと思つたらダメなんですね。そこが面白いところでもあるのです。が……。

一般のご家庭の場合、ピアノの機能・性能のベストな状態を長期にわたって維持するには、年に一度の定期調律が必要です。私たちは、その一台を何十年先まで使ってもらうためにピアノの健康状態を管理する、ピアノの主治医ともいえる存在。初めてピアノにふれるお子さんからプロのピアニストまで、どんな立場の人のピアノであつても常に的確な診断と処置ができる、ピアノの名医と呼ばれるような調律技術者でありたいですね。

私たちが、ピアノの機能・性能のベストな状態を長期にわたって維持するには、年に一度の定期調律が必要です。私たちは、その一台を何十年先まで使ってもらうためにピアノの健康状態を管理する、ピアノの主治医ともいえる存在。初めてピアノにふれるお子さんからプロのピアニストまで、どんな立場の人のピアノであつても常に的確な診断と処置ができる、ピアノの名医と呼ばれるような調律技術者でありたいですね。

二四人の調律技術者のうち一五人がコンサートピアノグレードを取得

伊藤楽器の設立は昭和三二年。現在は、本店（千葉県船橋市）と北習志野、松戸の三店舗にピアノショールーム、北習志野とららぽーと（船橋市）の二店舗に中古ピアノセンターを有し、千葉県北西部の一四市町五一会場ヤマハ音楽教室を展開しています。

私が部長を務める技術事業部は、「技術者は技量の発揮と技術力向上に専念すべきである」という伊藤賢二社長の方針で開設された専門部署で、嘱託を含め二四人のピアノ調律技術者が所属。ホールや学校など公共施設のピアノ、当社の店舗や音楽教室のピアノ、そして、ピアノ指導者など専門家の方を含めた一般家庭のピアノの調律・調整を手がけています。

当事業部二四人のピアノ調律技術者のうち、一五人はコンサートチューナー。ヤマハピアノテクニカルアカデミーのレベルアップコース（グレード取得コース）で技量を磨き、最高グレードの「コンサートピアノグレード」を取得しています。「この道に入った以上、一番上のグレードを取得しないというのはいり得ない」というのが当社のポリシー。アカデミー卒業後

私に
陸
グー

とってのよい音は、
した飛行機が空の高みへ向かって
ンと昇っていくような、そんなイメージ

海野 洋 うんの・ひろし
昭和35年山形生まれ。中3～高1を千葉、高2～高3を宮城（仙台）で過ごす。小学校の6年間はピアノ、中学時代は吹奏楽、高校時代はフォークソングやロックバンドと、音楽は常に身近にあった。昭和53年、伊藤楽器入社。店頭業務を1年経験した後、ヤマハピアノ技術学校（東京）にて調律技術研修ジュニアコース、ヤマハ研修会館（浜松）にて同シニアコース修了。その後、上級コース（現レベルアップコース）各研修を経て、昭和62年コンサートピアノグレード（2級）取得。ヨーロッパ研修にも参加する。現在、伊藤楽器技術事業部長。

一〇年以内のグレード取得を目標に、調律技術者全員で切磋琢磨しています。

コンサートチューナーであるという自信と自覚が信頼につながる

コンサートホールのピアノを調整するスタッフとしてであれば、コンサートチューナーは五人もいれば十分なのに、なぜ伊藤楽器では皆がコンサートピアノグレード取得を目指すのか。それは、ヤマハのピアノ技術研修の、事実上の最高グレードを持つということ。技術者としての自信と自覚を深め、さまざまなことにきめ細かく注意を払って対応するための余裕を生み、結果として、お客様からの高い信頼にお応えしていくことができるからです。

私たち調律技術者の使命は、一台一台異なるピアノの個性を見きわめて、使用



コンサートチューナーであることは、社内では当たり前。ちょっとジレンマも感じます。